

あなたが地域の主人公 13

最近、わが意を得たりという言葉に2つ出合った。神奈川県各地で行われた「企業×NPO×大学パートナーシップミーティング」の成果共有会でのこと。講演者のソーシャルコーディネート神奈川の手塚明美さんが使われた「計画された偶発性」という言葉。  
元々は個人のキャリア形成理論。社会

計画された偶発性

的成功を収めたビジネスパーソンのキャリアを分析したところ、約8割が「現在のキャリアの成功は、予期せぬ偶然によるもの」という結果が導き出されたという。手塚さんはこの言葉を、企業・NPOなど異なる

出会い求めて積極的に

企業の活動理論としていいのだろうかと思う人もいるだろうが、新生のためにあえてこの言葉を使った冒険心がすごいと思った。お隣、逗子市では毎年「子どもフェスティバル」を行っている。市民団体だ



3月26、27日に行われた逗子市の子どもフェスティバル。多くの市民団体・企業が参加した=逗子市民交流プラザ

実行委員会の村川真理子さんは「最初のきっかけは、横須賀で行われたパートナーシップミーティングで偶然同じグループになったこと。そこからどんどん話が広がりました。フェスティバルはいつもこんな感じ。計画などはなく、企業もNPOも関係ない。子どもたちのために何かやりたい人と人がつながって大きくなりました」と語る。

「計画された偶発性理論」の提唱者クランボルツ教授は、成功に至る偶発的機会を得るためには、「好奇心・持続性・楽観性・柔軟性・冒険性」が必要という。NPOの特徴である「社会課題に対して先駆的に迅速に柔軟に多様性をもって自主自立して行動すること」と実に相性がよい理論だ。PDCAも大切だが、PLANに縛られて偶然の出会いを避けてはいけないし、待っていても出会いは訪れない。風薫る5月、NPO・市民団体のみなさん、多くの出会いをつくるために積極的に外に出てみませんか。

(横須賀市立市民活動サポートセンター館長・高橋 亮)